

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和 5年度学校評価 計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	唐津市立成和小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・昨年度もコロナ禍にあり、様々な教育活動の実践に影響がある一年であった。今年度は、コロナ禍以前の教育活動に戻ることが予想されるため、昨年度の課題をもとに、具体的取組や成果指標を設定し、教育活動の展開を図る。</p> <p>・「学力の向上」に関しては、これまで以上に「主体的、対話的で深い学び」の視点に立った授業改善と指導方法の工夫に取り組んでいく。</p> <p>・「不登校対策」に関しては、不登校傾向の児童は増加の傾向にあり、引き続き重点目標として「不登校を生まない学校づくり」に取り組んでいく。早期発見・組織的な対応について一層の取組強化を図る。</p>
------------------	--

2 学校教育目標	<p><b>【学校教育目標】「ハート」「パワー」「チャレンジ」</b>  <b>あたたかく、力強く、目標にチャレンジする 成和っ子の育成</b></p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<p><b>【本年度の最重点内容】</b>  <b>(1) 確かな学力の定着 (2) 学級経営の充実 (3) 豊かな心の育成 (4) 生徒指導の充実</b>  <b>(5) 不登校・いじめ・問題行動等への指導 (6) 教育相談・特別支援教育の充実 (7) 健康・安全教育の充実 (8) 開かれた学校づくり</b></p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)							評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上	・授業では、本時のめあて(目標)とまとめ(学習内容)を確認したり、記述したりするようにする。							○学習研究部 ・学力向上コーディネーター ・研究主任
	○校内研究で進める「思考力を高める指導の工夫」の授業実践	○「かく」ことに関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童85%以上	・授業では、自分気持ちや考えを適切に書き表したり、文法を意識して正しく書いたりできるように継続指導をする。 ・書いた文章を多くの人に伝える楽しさを味わわせる。 ・貸し出し冊数1人100冊を目指し、図書館教育に力を入れる。							○学習研究部 ・学力向上コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳授業の充実に努め、「他者を思いやることができる」と回答した児童80%以上	・児童が人それぞれの立場に立って考える活動を適宜取り入れる。 ・授業において、交流や対話の活動を取り入れ、児童同士で意見を認め合う場面をつくる。							○特活部 ・道徳教育推進教員 ・人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめ防止等について組織的な対応ができています」と回答した教師85%以上	・心のアンケートを5. 9. 10(11)、1. 2月に実施し、児童の実態を把握する。 ・管理職や教務主任、生徒指導主任、担任でチームを作り、組織的対応を行う。							○生活部 ・教頭
	○登校に不安を感じる児童・不登校児童への組織的対応の充実	○早期発見・早期対応により、登校に不安を感じたり、不登校になったりしないようにする。	・管理職や教務主任、教育相談主任、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、担任でチームを作り、組織的対応を行う。 ・ケース会議を開き、情報共有を行い、対策を練る。 ・SCやSSWと連携を図り、児童や保護者に寄り添った対応を行う。							○生活部 ・教頭
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・一人ひとりに役割や出番を与えられるようなたわり班活動や集会活動の工夫と、達成感を感じられるような教師の声かけを行う。 ・キャリアパスポート等を活用し、様々な活動の目標設定や振り返りを行う。 ・各学年に応じたキャリア教育を行う。							○特活部 ・教務主任
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間(登下校を含む)で420分以上の児童60%以上	・外遊びの奨励と環境づくりを推進する。 ・縄跳び大会等に向け、活動する時間を確保し、取り組ませる。 ・体育委員会を中心にスポーツチャレンジの取組を行い、体力向上に努める。							・保体部
	②「望ましい生活習慣の形成」	○朝食をほとんど毎日とって登校する児童95%以上	・全校朝会で話をしたり、給食時間に放送をしたりして、児童の朝食への関心を高める指導を行う。 ・栄養教諭が学級で食に関する指導を行う。 ・懇談会や個人懇談で保護者に直接説明し、啓発を図る。 ・給食だよりを月に一回発行し、保護者への啓発を図る。							・保体部
	③「安全に関する資質・能力の育成」	○児童生徒の交通事故・犯罪被害を0(ゼロ)にする。	・地域の方と協力しながら、朝の交通指導を行う。 ・年度初めに、交通安全指導・自転車の乗り方の指導を行う。 ・低学年は集団下校を行う。学年間で下校時刻をそろえて下校させる。 ・防犯意識を高めるために、安全集会を行う。							・生活部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ・時間外勤務時間一月45時間未満	・職員作業等役割分担を明確にし、業務を効率よく進める。 ・定時退勤日を設定する。 ・掲示物や声かけ等により意識を高め、時間外勤務時間一月45時間未満を目指す。							・教頭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)							評価	意見や提言
○特別支援教育の充実	○特別支援教育の充実	○月に1回以上は特別支援委員会等を開催し、教員間で情報共有を行い、特別支援教育の充実に努める。	・児童が安定した学校生活を送れるように、担任や生活支援員との情報共有を行い、児童や保護者の願いに寄り添った指導ができるようにする。							・特別支援教育コーディネーター
○開かれた学校づくり	○家庭や地域との連携	○情報発信に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした保護者85% ○ゲストティーチャーを招き、児童の体験活動の充実に努める。	・はなまる連絡帳等各種通信やホームページの更新を月2回以上行い、家庭や地域へ保護者目線での情報発信を行う。 ・学校だよりを月1回発行する。 ・地域の方々と連携した体験活動を行う。活動記録を保存し、次年度に引き継ぐ。							・管理職

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--